

過去3度廃案になった「共謀罪」が再び創設されようとしています。「テロ等準備罪」と名を変えた「共謀罪」です。二階俊博幹事長が「今国会で成立させる」と明言しているように、安倍政権は本気で今国会で押し通そうとしています。

「共謀罪」は労働運動や市民運動に

モノを言えない社会をつくる「共謀罪」の危険性を伝え広げよう



鎌田 慧

ルポライター

「戦争をさせない1000人委員会」発起人

「テロ等準備罪」という名の「共謀罪」の創設に向け安倍政権が突き進んでいる。この法案提出が迫る中、何が問題なのかについて鎌田慧氏に聞いた。(聞き手編集部)



「残夢 大逆事件を生き抜いた坂本清馬の生涯」 鎌田慧著 ●講談社文庫 800円+税

げるので。

大逆事件の責任者となった検事総長代理の平沼騏一郎が『回顧録』を残しています。今の右翼政治家・平沼超夫の義父です。

平沼『回顧録』では「事件が本当であれば秋水は首魁に違いない」と、まだ何も事件が発生していないうちから秋水を事件の首謀者として見込み捜査をしたことを明らかにしています。続けてこう書いてあります。「幸徳傳次郎(編註・秋水)は此の事件に関係のない筈はないと云ふのが、当時関係官吏一同の意見であったのであります。菅野スガはその内縁の妻であり、新村忠雄も宮下(太吉)も幸徳に無政府共産主義を鼓吹せられて、弟子同様になって居る者でありますから、幸徳がこの事件に

大きく関わるものです。デモや集会などを行った時に何かのきっかけで逮捕される。そのことをもって、その団体を「正当な活動を行う団体が犯罪を行う団体に一変した」と政府や警察が認定したら、その団体を根こそぎ取り締まることができるというムチャクチャな法律です。

「共謀罪」の対象となる277の罪には、「組織的な強要」というような、どのようなにでもどんな団体にでも適用できるものも含まれていますし、労働基準法や労働者派遣法をはじめ多岐にわたって対象が広がられています。

政党や労働組合のような団体以外の人には、安倍首相が言うように「一般人には関係ない」と自分には無関係だと考えている人が多く、運動が分断されているように見えます。しかし、団体に属する人たちが声を出せないような息苦しい空気の中では、誰も声をあげられなくなります。思想の自由、表現の自由とは、生きていく自由で、それが失われる監視社会ができあがります。

国民に犠牲を強いるとんでもない政策が出てきても、誰も納得しない戦争に踏み出そうとしても、何も言えない社会です。ふつうの善良な内にあつた」とあります。

歴史的な事件だから細かなことにこだわらず、どんどん逮捕して首を切つたらよからうというものです。彼らの考えていることはこのくらいなのです。現代はまったく違う、と言いつつ、権力者はこうやって政府への批判者を弾圧するものだという動かね証拠です。

戦後に引き継がれた監視体制

その後、1925年に、「組織」団体を犯罪視する、治安維持法ができました。「団体を変革することを目的として結社を組織したる者」を極刑に処すると定められ、会話の盗み聞きや盗聴、密告や任意の取り調べで、政府に批判的な人々を処罰するという弾圧は、いっそう苛烈になっていきました。

治安維持法下の取り締まりに「横浜事件」があります。細川嘉六という研究者の出版記念を、温泉で行った際に撮った写真をもとに、共産党再建運動だとして上げられ、出版関係者らが逮捕された事件です。特

市民にもすぐにその影響が出てきます。

根拠なしの大弾圧

この「共謀罪」は、何よりも1910年の「大逆事件」を私に思い起こさせます。

天皇暗殺を企てたとして幸徳秋水、菅野須賀子ら24人が死刑判決を受け、12人が判決から数日後に処刑された事件です。「天皇に危害を加へんとしたる者は死刑に処す」という当時の刑法に基づくものです。

菅野須賀子が処刑される前に獄中で書いた手記に「煙のような座談を事件と結びつけたもの」と遺しています。一斉検挙の出発点となった「座談」とは、若者4人が天皇に爆弾を投げつけたという夢想のような会話をしたただけのことでした。

大逆事件の頃は密偵や尾行がいつもついていました。公然とくついでくる私服刑事を、大杉栄などは買物に使うなどして付き合っていたという事です。部屋のすぐ側でも床下でも会話が聞かれていたのです。それが記録になってきちんと残っています。そうやって盗み聞きした言葉をつなぎ合わせて、罪をでっちあ

高編註・特別高等警察から殴る蹴るの暴行を受け、4人が獄死、1人が出獄直後に病死しています。

戦後になってそういう取り締まり方が終わったかというところではありません。戦争中の特高を引き継ぐように、公安警察が作られ、着々とその権限を強化してきました。

アフガン・イラク戦争を前後する時期には、事あるごとに市民団体や労働組合のメンバーの逮捕を繰り返しました。最近では、私が日比谷野外音楽堂の反原発集会などに行くと、集会周辺に陣取った山のような私服警官たちから「おっ、鎌田が来た」という声が聞こえるのです。

また、公安事件にしてもふつうの刑事事件にしても、戦後、たくさんの冤罪事件が生み出されています。警察・検察がひとたびこうだと決めたら、いくらでも「自白」させることができます。虚偽の「自白」を根拠に死刑判決を受け、そのまま死刑になった人もいます。

また、帝銀事件の平沢貞通さん、三鷹事件の竹内景助さん、名張毒ぶどう酒事件の奥西勝さんなど、無実を訴えながら獄中で亡くなった方も少なくありません。今も30年以上も